

地震その時10のポイント



今年4月に発生した熊本地震では、大規模な被害が出ています。東京においても、首都直下地震の発生が危惧されており、いつ起きるか分からない地震に備え、各家庭や地域で今からできる安全対策が必要です。

緊急地震速報を受けたり地震の揺れを感じたら、まず身の安全を最優先しましょう。自分の身の安全を図ることで、けがを防ぎ、地震後の避難や救出・救護などがスムーズに行えます。

地震時の行動

地震だ！ まず身の安全

- ◆揺れを感じたり、緊急地震速報を受けた時は、身の安全を最優先に行動する。
- ◆丈夫なテーブルの下や、物が「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」空間に身を寄せ、揺れがおさまるまで様子を見る。

[高層階(概ね10階以上)での注意点]

- ◆高層階では、揺れが数分続くことがある。
- ◆大きくゆっくりとした揺れにより、家具類が転倒・落下する危険に加え、大きく移動する危険がある。



地震直後の行動

落ちついて火の元確認 初期消火

- ◆火を使っている時は、揺れがおさまってから、あわてずに火の始末をする。
- ◆出火した時は落ちついて消火する。



あわてた行動 けがのもと

- ◆屋内で転倒・落下した家具類やガラスの破片などに注意する。
- ◆瓦、窓ガラス、看板などが落ちてくるので外に飛び出さない。



窓や戸を開け 出口を確保

- ◆揺れがおさまった時に、避難できるよう出口を確保する。



門や塀には近寄らない

- ◆屋外で揺れを感じたら、ブロック塀などには近寄らない。



地震後の行動

火災や津波 確かな避難

- ◆地域で大規模な火災の危険がせまり、身の危険を感じたら、一時集合場所や避難場所に避難する。
- ◆沿岸部では、大きな揺れを感じたり、津波警報が出されたら、高台などの安全な場所に素早く避難する。



正しい情報 確かな行動

- ◆ラジオやテレビ、消防署、行政などから正しい情報を得る。



確かめ合おう わが家の安全 隣の安否

- ◆わが家の安全を確認後、近隣の安否を確認する。



協力し合って 救出・救護

- ◆倒壊家屋や転倒家具などの下敷きになった人を近隣で協力し、救出・救護する。



避難の前に 安全確認 電気・ガス

- ◆避難が必要な時には、ブレーカーを切り、ガスの元栓を締め、避難する。



今から始める!

命を守る! 家具転対策

家具転対策とは、家具類の転倒・落下・移動防止対策の略です。



なぜ家具類に地震対策が必要なの?

けが・火災・避難障害等の危険があります!



近年発生した地震で、けがをした人の3~5割は家具類の転倒・落下・移動が原因でした。大地震では、テレビや、タンスなどが不意に落ちたり倒れてきます。倒れた家具が出入口を塞ぎ、割れたガラス等が逃げ道を阻みます。さらに、家具や本棚の中にある本などがストーブなどに転倒・落下して出火する危険もあります。

高層階では揺れが大きく、長く続く傾向があるので「移動」対策も心がけましょう。

けが



火災



避難障害

